

# 「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

## 1 生育状況（実証ほデータ）

前年に比べて、草丈、葉齢、葉色は並み、茎数はやや少なくなっている。

葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は前年並み、茎数はやや少なくなっている。

表1 「富富富」の生育状況（7月3日 栽培実証ほ）

品種	年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
				(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD
富富富	H30	5月15日	49.6	26.5	580	10.9	4.4	39.5
	H29	5月14日	48.1	29.3	611	10.8	4.4	41.6
コシヒカリ	H30	5月13日	56.8	26.3	551	11.3	4.3	37.3
前年比・差		1	103	90	95	0.1	0.0	-2.1
コシヒカリ比・差		2	87	101	105	-0.4	0.1	2.2

注) 富富富栽培実証ほ23か所平均

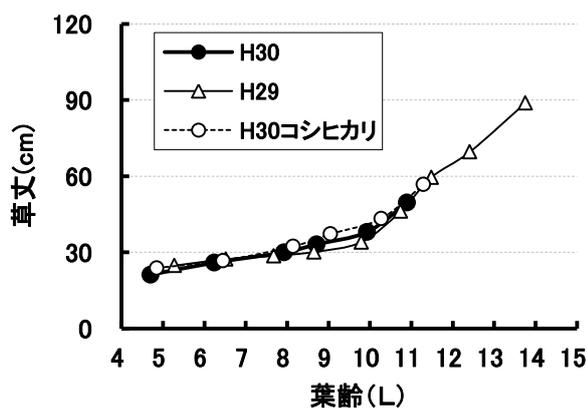


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

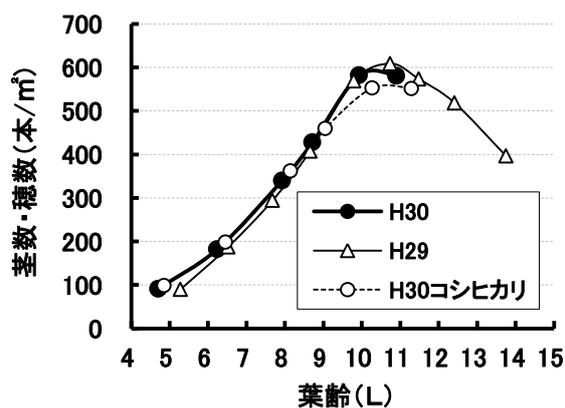


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

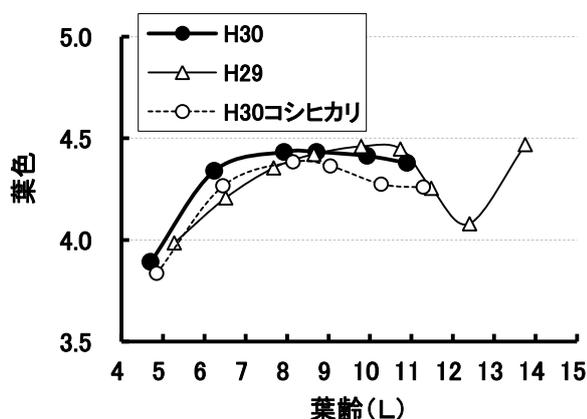


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

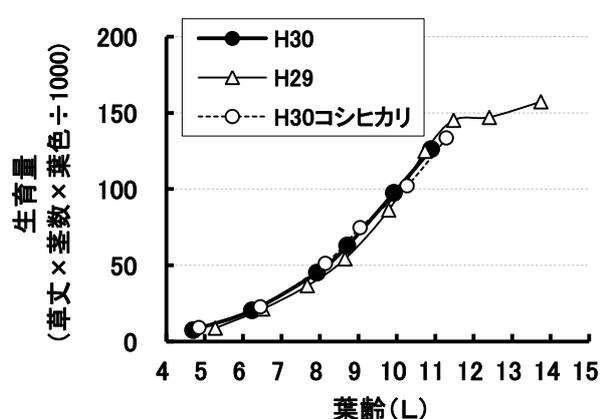


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

## 2 当面の技術対策

- ・根や稲体の健全化のため、中干し後、出穂期まで間断かん水を行う。
- ・茎数が多く生育が旺盛なほ場では、過剰籾数や倒伏を防ぐため、幼穂形成期まで強めに干す。
- ・葉色が極端に淡いほ場（SPAD 値 38 未満）では、乾きすぎないように注意する。

### (1) 「富富富」の幼穂形成期の見込み

平成 28 年および 29 年の「富富富」の幼穂形成期は、コシヒカリとほぼ同時期であった。本年の生育観測ほのコシヒカリの幼穂形成期は 7 月 12 日頃（今後平年並みの気温で推移した場合）と予測しており、「富富富」の幼穂形成期も ほぼ同時期（7 月 12～13 日頃）と見込まれる。

表2 富富富とコシヒカリの幼穂形成期

年次	試験場所	移植日 (月/日)	幼穂形成期(月/日)		
			富富富	コシヒカリ	コシ差
H28	農研	5/2	7/4	7/4	0
		5/9	7/6	7/7	-1
		5/18	7/10	7/11	-1
		5/24	7/13	7/13	0
H29	農研	5/1	7/6	7/6	0
		5/8	7/8	7/8	0
		5/16	7/11	7/11	0
		現地	5/14	7/12	7/11

注1) 供試品種 H28: 富山87号、H29: 富富富

注2) H29現地は、展示ほ23か所の平均値

### (2) 水管理

- ・中干し後は、間断かん水により、根や稲体の健全化に努めるとともに、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ 3cm 程度」に誘導する。
- ・また、7 月 3 日現在において、茎数が 600 本/m<sup>2</sup>を上回り、かつ葉色が 4.6 以上のほ場は、過剰籾数を防ぐため、幼穂形成期まで強めに干す。
- ・今年の夏は暑くなることが予想されることから、7 月 3 日現在において葉色が極端に淡いほ場（SPAD 値 38 未満）では、乾きすぎないように注意する。

### (3) 「富富富」分施栽培における穂肥施用の目安

#### ① 「富富富」の分施栽培における穂肥施用の基本体系

- ・分施栽培における穂肥は 1 回目を 幼穂形成期の 5 日後に窒素成分で 0.75～1.0kg/10a、2 回目を 1 回目の 5～7 日後に窒素成分で 1.5kg/10a を基本とする。

#### ② 「富富富」における幼穂形成期の生育の目安

表3 幼穂形成期の生育の目安

草丈 (cm)	m <sup>2</sup> 茎数 (本/m <sup>2</sup> )	群落葉色	SPAD	生育量
63	480 ~ 550	4.0 ~ 4.2	38 ~ 39	125 ~ 145

注) 生育量: 草丈×茎数×群落葉色÷1000

### ③「富富富」分施栽培における穂肥施用の基準

#### <1回目穂肥の基準>

- ・分施栽培においては、表3、図5を参考にし、幼穂形成期の生育状況に応じて穂肥施用を判断する。

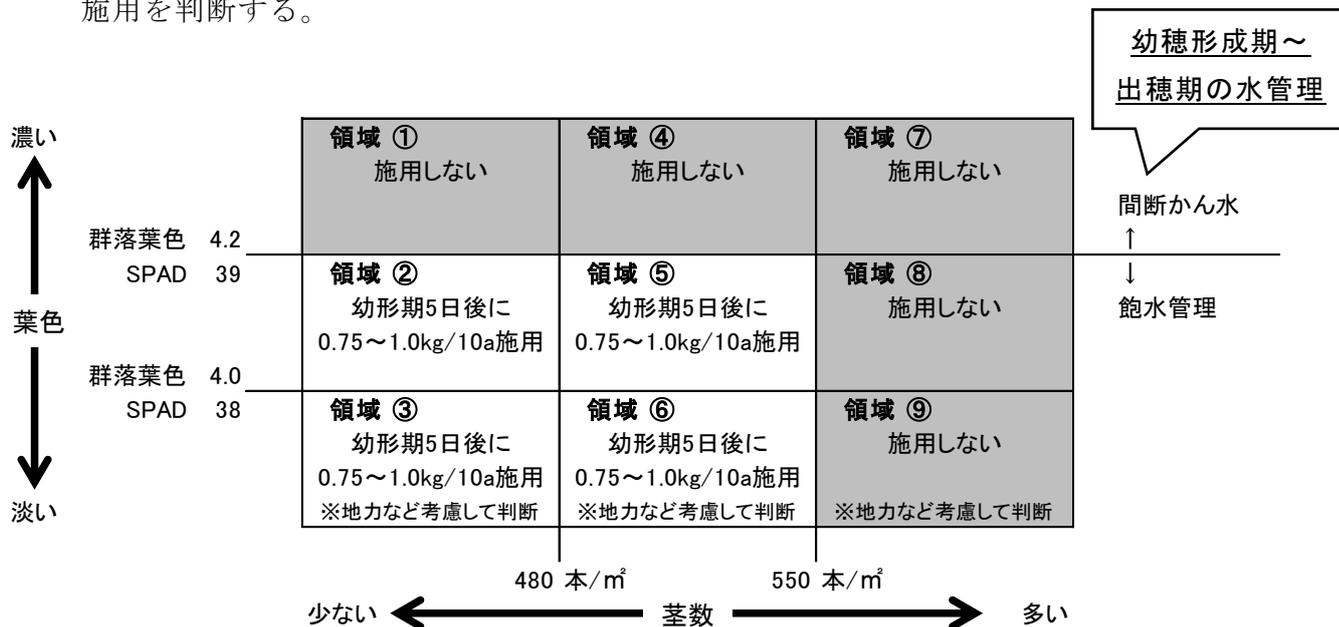


図5 幼穂形成期の生育に基づく1回目穂肥施用の目安 (H30年度暫定版)

#### <2回目穂肥の基準>

- ・1回目の5～7日後に窒素成分で1.5kg/10a施用する。ただし、1回目穂肥を施用しない場合は、幼穂形成期の10～12日後に窒素成分で1.5kg/10a施用する。

#### <幼穂形成期～出穂期の水管理>

- ・幼穂形成期の群落葉色が4.2 (SPAD値39) 以上の場合は、間断かん水を行う。
- ・一方、幼穂形成期の群落葉色が4.2 (SPAD値39) 未満の場合は、稲体の栄養状態の維持のため、幼穂形成期～出穂期まで飽水管理を行う。

#### (4) その他の管理

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるように留意する。